

東京文化戦略2030

3か年のアクションプラン(2023 - 2025)

令和5年(2023年)3月

生活文化スポーツ局

目次

「戦略」と戦略実行のための「推進プロジェクト」（体系図）	3
戦略1 人々のウェルビーイングの実現に貢献する	4
戦略2 人々をインスパイアする	29
戦略3 芸術文化のハブ機能を強化する	46
戦略4 持続性のある芸術文化エコシステムを構築する	57

「東京文化戦略2030アクションプラン」とは

- 東京都は、2022年度から2030年度までの間における東京都の文化行政の方向性や重点施策を示した「東京文化戦略2030」（以下「文化戦略」という。）を2022年3月に策定しました。
- この文化戦略では、2040年代における東京のあるべき姿（将来像）を描き、その実現に向けた4つの戦略及び10の推進プロジェクトを位置づけています。
- この推進プロジェクトに基づき、**東京都、東京都歴史文化財団及び東京都交響楽団が重点的に実施する事業の3か年計画を定めたものが「東京文化戦略2030アクションプラン」（以下「本アクションプラン」という）**です。
- 2030年に向け、本アクションプランに記載する各事業を着実に進めることで、文化戦略が目指す将来像の実現を図っていきます。
- なお、本アクションプランは2023年3月時点で想定している内容であり、事業の進捗や社会経済情勢等の状況を踏まえ、毎年度更新する計画です。

4つの「戦略」 及び 10の「推進プロジェクト」 (体系図)

戦略1 誰もが芸術文化に身近に触れられる環境を整え、
人々の幸せに寄与する



～人々の**ウェルビーイング**の実現に貢献する～

プロジェクト1

地域活性化プロジェクト (芸術文化の敷居を低くする取組)

プロジェクト2

だれもが文化でつながるプロジェクト

プロジェクト3

キッズ・ユース (Kids and Youth) ・プロジェクト

戦略2 芸術文化の力で、人々に喜び、感動、新たな
価値の発見をもたらす



～人々を**インスパイア**する～

プロジェクト4

スマート・カルチャー・プロジェクト(デジタルテクノロジーを活用する取組)

プロジェクト5

「アートのある生活」プロジェクト

プロジェクト6

アート&エンターテインメント・プロジェクト

戦略3 国内外のアートシーンの中心として、世界を
魅了する創造性を生み出す



～芸術文化の**ハブ**機能を強化する～

プロジェクト7

アート・ハブ (Art Hub) ・プロジェクト

プロジェクト8

海外発信プロジェクト

戦略4 アーティストや芸術文化団体等が継続的に
活動できる仕組みをつくる



～持続性のある芸術文化**エコシステム**を構築する～

プロジェクト9

アーティスト・ステップアップ・プロジェクト

プロジェクト10

担い手育成・支援&創作環境向上プロジェクト

戦略 1

人々のウェルビーイングの実現に貢献する

プロジェクト1

地域活性化プロジェクト

- 1-1 東京大茶会
- 1-2 伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～
- 1-3 ヘブンアーティスト
- 1-4 東京アートポイント計画
- 1-5 大人のための伝統文化・芸能体験事業
- 1-6 区市町村等との連携会議・事業
- 1-7 地域芸術文化活動応援助成
- 1-8 伝統芸能体験活動助成
- 1-9 アート・カルチャー体験100

1 - 1 東京大茶会

【事業概要】

様々な流派による伝統的な茶席や野点のほか、親子で体験できる茶道教室、英語で解説をする野点、日本の伝統文化を楽しむステージイベントやパフォーマンスなどによる大規模な茶会を江戸東京たてもの園及び浜離宮恩賜庭園で開催し、誰でも気軽に茶会に参加できる機会を提供する。

【3年後の目標】

地域の団体と連携を行い、伝統文化に触れる機会がなかった人々にも参加、体験する機会を提供し、さらなる普及を図る。担い手の減少等により衰退の危機にある伝統文化について、その魅力を発信するとともに、子供や若者が体験や参加することにより、次世代へ継承するきっかけを作る。

【2022年度実績】

浜離宮恩賜庭園（10月22日,23日）及び江戸東京たてもの園（10月29日,30日）で東京大茶会を開催

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
東京大茶会	開催準備 → ★ 開催（秋ごろ） （江戸東京たてもの園 及び浜離宮恩賜庭園）	同様のサイクルにて運用 → ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

【事業概要】

多摩地域が保有する地域の文化資源を活用して、まちなかでの演奏会や屋外ステージを舞台にした本格的な公演などをフェスティバルとして実施し、多彩な伝統文化・芸能の魅力を発信する。

【3年後の目標】

より多くの多摩地域の市町村と連携・協力体制を構築し、街なかに様々な伝統文化が集う多彩なフェスティバルに発展させる。伝統文化に馴染みのない方々も気軽に親しめる多様なプログラムにより、伝統文化の鑑賞・参加機会を提供するとともに、若手実演家へ活躍機会を設けるなど、地域に根差している伝統芸能を次世代へ継承するきっかけを作る。

【2022年度実績】

多摩地域の文化資源を活用して伝統文化・芸能に馴染みのない人々も気軽に親しめるフェスティバルを開催

日時：9月17日,18日

会場：JR八王子駅北口（西放射線ユーロード）、いちょうホール ほか

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェ スティバル～	開催準備 → ★ 開催（秋ごろ）	同様のサイクルにて運用 → ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

1-3 ヘブンアーティスト

【事業概要】

都立公園や都内民間施設などの公共空間を活動場所として指定し、様々なアーティストに開放することで、都民や東京都を訪れた方が気軽に芸術文化に触れる機会を提供するとともに、アーティストの技芸研鑽の場を確保し、新たな文化創造支援と東京の魅力発信を図る。

【3年後の目標】

都民や東京都を訪れる方に身近な場所で文化に親しむ機会を提供するとともに、上野恩賜公園などで大規模なイベントを実施することにより、アーティストに創造し表現する場を提供している。

【2022年度実績】

11月29日(火)・30日(水)・12月1日(木)に、公開審査会を実施

148組のアーティストのうち23組（パフォーマンス部門18組、音楽部門5組）が合格

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
ヘブンアーティスト	主催・共催イベント（年4回）	同様のサイクルにて運用	事業の評価・検証を反映し運用
	<p style="text-align: center;">★ ヘブンアーティスト TOKYO（10月）</p> <p style="text-align: center;">★ 事業の 評価・検証</p> <p>審査会の実施、 関係機関との連絡調整</p>		

1 - 4 東京アートポイント計画

【事業概要】

都内各地のまちなかにある様々な地域資源や地域固有の社会課題を結ぶアートプロジェクトをアーティストと市民が協働して実施し、都民が身近に芸術文化に触れる機会を提供する。また、アートプロジェクトの担い手を対象とした人材育成プログラムを展開する。

【3年後の目標】

クリエイティブ・ウェルビーイングの視点から東京の社会課題解決に資するテーマによるアートプロジェクトを実施するとともに、多摩エリアでの広域展開や基礎的自治体との連携による事業展開が行われている。また、都内外でアートプロジェクトの担い手となる人材を育成している。

【2022年度実績】

まちなかななどでアートに触れる機会を創出するため、アーティストと市民が協働するアートプロジェクトを9件実施
アートプロジェクトを立ち上げる演習や手話講座などを通年で実施したほか、運営や技術に関わる映像講座を45本制作

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アートポイント 拠点形成事業	まちなかでの アートプロジェクトを実施 →	事業の評価・検証を 反映し運用 →	
	事業の評価・検証 →		
アートポイント 人材育成等事業	アートプロジェクトに求めら れる技術を学ぶ講座等を実施 →	事業の評価・検証を 反映し運用 →	
	アートプロジェクトのための 技術開発・環境整備を実施 →		
	事業の評価・検証 →		

1 - 5 大人のための伝統文化・芸能体験事業

【事業概要】

伝統文化・芸能を1日で体感できるプログラム（講演、鑑賞及び体験から構成）を開催。伝統文化・芸能の様々なジャンルについて、その魅力を学び、体験する機会を提供するとともに、オンラインで国内外に発信する。

【3年後の目標】

現役世代の大人を中心に、気軽に楽しむことができる体験や鑑賞の機会を提供するとともに、担い手となる団体及び若手実演家等の活躍の場を創出することで伝統文化・芸能の裾野を広げる。合わせて、体験した多くの都民が、事後、地元の教室に通うなど、身近で伝統芸能等を習得できるような好循環を生み出す。

【2022年度の実績】

伝統芸能の魅力と奥深さを再認識する機会を創出するため、伝統芸能の講演、鑑賞と体験をセットにしたプログラムを2回実施
（第1回）日時：10月2日(日) 会場：立川市女性総合センター
（第2回）日時：1月15日(日) 会場：神田明神ホール

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
大人のための伝統文化・芸能体験事業	講演・実演鑑賞・体験 年間4回	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

1 - 6 区市町村等との連携会議・事業

【事業概要】

地域住民が身近に触れられる事業に関して、都と区市町村等とが共有する場を設けることで、足並みを揃えた戦略的事業を展開する。

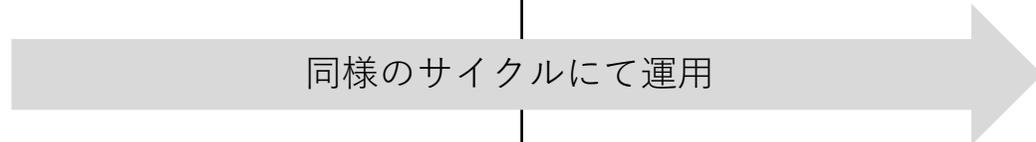
【3年後の目標】

区市町村との戦略的パートナーシップ会議等をもとに施策を展開し、地域活性化に貢献している。

【2022年度の実績】

〔連携会議〕 11月11日(金)に東京都区市町村文化行政ネットワーク会議を開催し、東京文化戦略2030の紹介や各区市町村の文化事業の情報交換等を行った。〔都内40自治体参加〕

〔連携事業〕 次年度の連携希望についてアンケートを実施し、希望する自治体へヒアリングを実施。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
区市町村等との連携会議	★ ネットワーク会議開催 (秋頃)	同様のサイクルにて運用 	
区市町村等との連携事業	戦略パートナーシップ会議の開催 ★ 事業実施 	同様のサイクルにて運用  ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 
区市町村向けセミナー	セミナー開催 	同様のサイクルにて運用  ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 

1 - 7 地域芸術文化活動応援助成

【事業概要】

都内の各地域の特色ある文化の醸成・発展を促進する芸術文化活動や、都内の各地域の文化財や文化資源を未来に向けて継承し、その魅力を地域内外に広く発信する取組を支援する。

【3年後の目標】

都内の無形民俗文化財の公開活動や有形文化財を活用した事業、地域の文化資源を活用する事業や文化的魅力を高める事業を支援することで、各地域の振興に寄与している。

【2022年度の実績】

東京地域芸術文化助成を実施

助成上限額：50万円

助成率：1/2

申請受付：1月, 4月, 7月

採択件数：18件（申請：31件）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
地域芸術文化活動応援助成	<p>既存の助成を再構築し、 公募・助成（年3回予定）</p> <hr/> <p>助成上限額：50万円又は200万円 助成率：1/2 ※補助対象事業等の拡充</p>	<p>公募・助成</p> <p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の 評価・検証</p>	<p>公募・助成</p> <p>事業の評価・検証を 反映し運用</p>

1 - 8 伝統芸能体験活動助成

【事業概要】

伝統芸能のさまざまな種目について、初めての人でも入り易く、かつ継続的に自ら実技体験ができる事業を助成する。

【3年後の目標】

初心者でも継続的に実技体験ができる事業を支援することで、伝統芸能の振興に寄与している。

【2022年度の実績】

伝統芸能体験活動助成を実施

助成上限額：100万円

助成率：1/2

申請受付：3月1日（火）～5月9日（月）

採択件数：14件（申請：30件）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
伝統芸能体験活動助成	公募・助成（年1回） 助成事業の実施 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

1 - 9 アート・カルチャー体験100

【事業概要】

都立文化施設の体験型事業（1日～短期、通年実施プログラム、オンラインプログラム）の情報を集約し、ウェブサイトで発信することにより、都民が芸術文化を気軽に体験できるようにする。

【3年後の目標】

正確・タイムリーな情報を分かりやすく発信することにより、芸術文化体験の機会の創出に寄与する。

【2022年度の実績】

PV数：6,544PV（2022年4月1日～2023年2月7日現在）

入力件数：444件（2022年4月1日～2023年2月7日現在）

広報・閲覧数増加施策の検討体制の整備

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アートカルチャー体験100		運用	
	広報施策の検討	広報施策の実施	

※歴史文化財団自主事業

プロジェクト 2

だれもが文化でつながるプロジェクト

2-1 クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

2-2 アール・ブリュット

2-3 芸術文化による社会支援助成

2-1 クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

【事業概要】

芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題の解決に取り組むため、芸術文化による社会包摂とウェルビーイングを推進する。

【3年後の目標】

国際カンファレンス等の開催を通じて東京の先進的な取組や成果を発信し国内外の都市へ横展開されている。
また、都立文化施設のアクセシビリティ向上により、あらゆる人が芸術文化を楽しむ環境となっている。

【2022年度の実績】

- ・「だれもが文化でつながる国際会議:Creative Well-being Tokyo」を開催〔2022年6月28日（火）～2022年7月7日（木）〕
- ・都立文化施設の各館において、インクルーシブプログラム・少子高齢化対応プログラム・多文化共生プログラムを実施
- ・文化施設の環境サポート機能整備に関するガイドラインの作成に着手
- ・TURN LAND プログラムを実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
だれもが文化でつながる国際会議	国内中心のシンポジウムを開催 ★ 国際会議にあわせた国内キャンペーンと国際広報、国内外都市とのネットワーク構築	国際カンファレンス開催	国内中心のシンポジウムを開催
高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象としたアクセスポログラムの実施	都立文化施設でプログラムを実施 他の施設と共同で取り組むパートナープログラム	取組の成果を国際会議で国内外に発信・共有 同様のサイクルにて運用 ★ 事業の評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
都立文化施設のアクセシビリティの向上	都立文化施設の環境サポート機能整備に関するガイドライン策定  鑑賞サポートツール等の運用・検証 （視覚障害者支援機器・聴覚障害者支援機器・手話通訳等） 		
他分野連携プログラム（TURN LAND プログラム）の実施	TURN LAND 実施体制の構築、プログラム実施、プレLANDからの移行施設・団体検討  プレLAND 実施体制の構築、プログラム実施、参加団体、アーティスト等の調査及びマッチング 		

2-2 アール・ブリュット

【事業概要】

アール・ブリュットを含む様々な作品、作家とその背景を通じた展示等により、人々が多様な創造性に触れ、新たな価値の発見につながる機会を創出する。

【3年後の目標】

拠点（渋谷公園通りギャラリー）での展覧会や拠点外での展示等が実施されることにより、都民等がアール・ブリュット等の作品に触れる機会が増加している。

【2022年度の実績】

渋谷公園通りギャラリーでの展覧会に加え、区市町村等と連携した展示等を実施

- (1) 東京都渋谷公園通りギャラリー（展覧会） 7月16日（土）から9月25日（日）まで
- (2) 練馬区立美術館区民ギャラリー（展覧会） 10月27日（木）から11月2日（水）まで
- (3) 府中市美術館市民ギャラリー（展覧会） 11月25日（金）から12月4日（日）まで
- (4) 八丈町多目的ホールおじゃれ（出張イベント）

8月2日（火）に八丈島と渋谷の会場をつないでリアルタイムで行うオンライン鑑賞ツアー等を実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
拠点での展示事業等	拠点で年4回の展覧会を開催 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →
拠点外での展示事業等	都内で区市町村等と連携した展示等を実施（2か所） →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

2-3 芸術文化による社会支援助成

【事業概要】

さまざまな社会環境にある人が共に参加し、個性を尊重し合いながら創造性を発揮することのできる芸術活動や、芸術文化の特性を活かし社会や都市のさまざまな課題に取り組む活動を支援する。

【3年後の目標】

障害の有無や年齢等を問わず、あらゆる人が芸術文化を享受できる環境の整備に寄与している。

【2022年度の実績】 芸術文化による社会支援助成を実施

助成上限額：200万円

助成率：2/3

申請受付：1月31日（月）～3月1日（火）、7月1日（金）～8月2日（火）

採択件数：23件（申請：72件）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
芸術文化による社会支援助成	公募・助成（年2回） 助成事業の実施 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

プロジェクト 3

キッズ・ユース（Kids and Youth）プロジェクト

3-1 キッズ伝統芸能体験

3-2 子どものための伝統文化・芸能体験事業

3-3 パフォーマンスキッズ・トーキョー

3-4 Shibuya StreetDance Week

3-5 TACTフェスティバル

3-6 Music Program TOKYO（ミュージックワークショップ他）

3-7 Museum Start あいうえの

3-8 若年層が主体的に芸術文化を体験する取組

3-1 キッズ伝統芸能体験

【事業概要】

伝統芸能のプロの実演家が、本格的な稽古場で子供たちに直接指導を行い、その成果を本物の舞台上で発表することにより、伝統芸能の世界が培ってきた礼儀作法や厳しさなどを体験できる学びの場を提供する。本格的な伝統芸能の体験を通じて、伝統芸能に対する興味・関心を高める。

【3年後の目標】

多摩地域等での開催を増やし、受講の機会を拡大するとともに、キッズ向けのプログラムを定期的かつ継続的に実施することにより、子供たちが伝統芸能をはじめ、日本の文化への興味を抱き、ファンとなるなど、次世代へ継承するきっかけを作る。

【2022年度の実績】

〔小中高生向けのスタンダードプログラム〕

年齢層にあわせたきめ細かいお稽古プログラムを12コース実施

会場：芸能花伝舎（新宿区）、梅若能楽学院会館（中野区）、東村山市立中央公民館（東村山市）ほか全7か所

〔中高生向けのユースプログラム〕

集中力をもって深い理解を目指す中高生向けの特別カリキュラムを3コース実施

会場：芸能花伝舎（新宿区）、新宿区立新宿文化センター（新宿区）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
キッズ伝統芸能体験	募集等 → 稽古 → 発表(3月) ★ 都内8か所（予定）	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

3-2 子供のための伝統文化・芸能体験事業

【事業概要】

子供たちに対し、伝統芸能の若手実演家等を講師とする体験・鑑賞プログラムを、身近な学校という場で実施する。体験を通じて、日本文化の価値に対する理解を深め、多様な文化に対する幅広い知識を育む。

【3年後の目標】

子供たちへ伝統芸能における鑑賞・参加機会を提供することにより、子供たちが伝統芸能をはじめ、日本の文化への興味を抱き、ファンになるなど、次世代へ継承するきっかけを作る。

【2022年度の実績】

開催時期：2022年5月～2023年3月

開催場所：東京都内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校においてプログラムを実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
子供のための伝統文化・芸能体験事業	実施準備 → 事業実施	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

3-3 パフォーマンススキッズ・トーキョー

【事業概要】

ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロのアーティストを、都内の小中学校・特別支援学校やホール、文化施設、児童養護施設等に派遣し、10日間程度のワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品を作り上げる。最後に発表公演を行い、子供たちの保護者をはじめ地域や教育・文化各方面の多くの人たちにワークショップの成果を発信する。

【3年後の目標】

子供たちへ良質なダンス、演劇、音楽等の芸術文化に触れられる機会を提供し、アーティストと共に舞台作品を作り上げることによって、子供たちの創造性や自主性、コミュニケーション能力、チャレンジする力、発想力等が育ち、親子で芸能文化の価値に対する理解が深まっている。

【2022年度の実績】

東京都内の学校（15件）・特別支援学校（2件）・文化施設（5件）・児童養護施設等（3件）においてプログラムを実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
都内学校・特別支援学校でのワークショップ（島しょ部含む）	<p>【子供】練習参加・創造 【アーティスト】指導・稽古・創造</p> <p>発表 講評・公演</p> <p>実施会場拡充</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の 評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を 反映し運用</p>
文化施設でのワークショップ	<p>【子供】応募・練習参加・創造 【アーティスト】指導・交流・創造</p> <p>発表 講評・公演</p> <p>（5施設（予定））</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の 評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を 反映し運用</p>
児童養護施設等でのワークショップ	<p>【子供】練習参加・創造 【アーティスト】指導・交流・創造</p> <p>発表 講評・公演</p> <p>（3施設（予定））</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の 評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を 反映し運用</p>

3 - 4 Shibuya StreetDance Week

【事業概要】

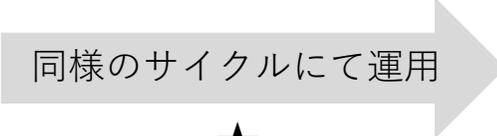
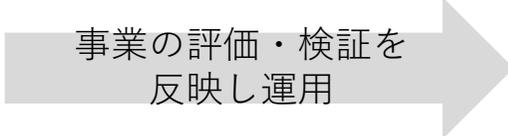
新しい芸術文化としてのストリートダンスの確立と、ストリートダンサーの聖地である渋谷から世界へ、良質なエンターテインメントを発信し、渋谷をより活力にあふれた街にすることを目的に、国内最大規模のストリートダンスの祭典を代々木公園を中心に開催する。

【3年後の目標】

ユース層によるダンス等の芸術文化を鑑賞・参加する機会が増加するとともに、コンテスト参加やプログラム鑑賞を通じて、仲間と連帯して新しい表現を創作するなど、創造力や発想力の育成に貢献している。

【2022年度の実績】

11月23日（水）に予定していた代々木公園でのプログラムは雨天により中止。オンラインのプログラムは実施。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
Shibuya StreetDance Week	開催準備  ★ 開催（11月） （代々木公園）	 同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	 事業の評価・検証を 反映し運用

3 - 5 TACTフェスティバル

【事業概要】

子供の感受性を育み、コミュニケーション能力を向上させることを目的として、海外から一流の舞台芸術家を招聘し、子供だけでなく親子で、そして大人も楽しむことのできる上質の舞台公演やパフォーマンスを東京芸術劇場で上演する。

【3年後の目標】

英国エジンバラフェスや仏アビニョン演劇祭はじめとした有名芸術祭のように知名度を上げて、国内外の演者と観客共に参加モチベーション向上に寄与するとともに、子供に本格的な舞台芸術に触れる機会を増やす。

【2022年度の実績】

開催期間：2022年5月1日（日）～5月8日（日）

開催場所：東京芸術劇場

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
TACT	<p>★ 開催（5月・芸劇）</p> <p>海外招聘の再始動に向けての調整</p> <p>新規メディアプラン・海外広報の強化</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を反映し運用</p>

3 - 6 Music Program TOKYO (ミュージックワークショップ他)

【事業概要】

子供向けに年齢に応じたミュージックワークショップを実施 (Workshop Workshop!) するとともに、教育プログラムでは子供向けオペラ制作のワークショップ (Music Education Program)、小学生、中高生を対象とする舞台芸術事業 (Enjoy Concerts!) を実施するなど、子供が芸術文化に主体的に取り組み、成長と共にステップアップする事業を東京文化会館で展開する。

【3年後の目標】

子供が本格的な音楽やオペラに親しめる事業が定着し、裾野の拡大に寄与している。

【2022年度の実績】

開催期間：通年

開催場所：東京文化会館、東京芸術劇場ほか都内文化施設等

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
Music Program TOKYO	<p><u>Workshop Workshop!</u> 通年で館内や都内文化施設と連携して実施</p> <p><u>Music Education Program</u> 通年で都の教育機関と連携したアウトリーチ 夏休みに他の文化施設と連携したオペラワークショップ</p> <p><u>Enjoy Concert!</u> シアター・デビュー・プログラム他</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の 評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を 反映し運用</p>

3 - 7 Museum Start あいうえの

【事業概要】

東京都美術館が中心となり、上野公園の日本を代表する9つの文化施設が連携し、こどもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援するプロジェクトであり、作品や文化資源を「観察・鑑賞」し「伝える・共有する」活動を通して文化を主体的に楽しむ機会をつくる。

【3年後の目標】

プロジェクトが定着し、ミュージアム・デビューする子供が増える環境が構築できている。

【2022年度の実績】

東京都美術館等9つの文化施設において各種プログラムを実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
Museum Start あいうえの	ファミリー&ティーンズ・プログラム	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
	学校プログラム		
	ダイバーシティプログラム		
	教育ツールを活用したプログラム		
	9館連携ポータルサイトの展開		

3-8 若年層が主体的に芸術文化を体験する取組

【事業概要】

若年層の都民を都立文化施設へ無料招待する取組や、若い世代が主体的に参加できるイベント開催することで、若年層が良質な芸術文化に触れる機会を提供する。

【3年後の目標】

ウェルカムユース等の実施を契機として、子供・若者が芸術文化を鑑賞・参加する機会が増えている。

【2022年度の実績】

Welcome Youth（ウェルカムユース）-2023春-の実施【2023年3月18日（土）～同年4月2日（日）】

- ・対象施設：東京都庭園美術館、江戸東京たてもの園、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館
- ・実施内容：①18歳以下を対象に対象施設の展覧会観覧無料、②「アートに出会おう！スタンプラリー」開催、③2023春の展覧会・イベント紹介 等
- ・告知等 特設ウェブサイトの開設、都内高校へのポスター配布、SNS広告等

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
ウェルカムユース (展覧会等の無料観覧) ※歴史文化財団自主事業	企画展等 (18歳以下、春2weeks) →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証 →	事業の評価・検証を 反映し運用 →
ウェルカムユース (告知・キャンペーンイ ベント) ※歴史文化財団自主事業	都内高校へのポスター配布 SNS広告等 WY独自イベント	以降、同様のサイクルにて運用 →	
若年層が主体的に参加 できるイベント	教育庁と連携した子供の体験事業 → 新たな施策の検討 →	以降、同様のサイクルにて運用 →	
デジタルテクノロジー を活用した取組	子供向けワークショップ(4-2再掲) →	同様のサイクルにて運用 ★事業の評価・検証 →	事業の評価・検証を 反映し運用 →

戦略 2

人々をインスパイアする

プロジェクト4

スマート・カルチャー・プロジェクト

4-1 TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

4-2 シビック・クリエイティブ・ベース東京「CCBT」

4 - 1 TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

【事業概要】

都の文化施設が有する収蔵品や、各館の展覧会・公演等の活動等の文化資源をデジタル化し、記録・保存・オンライン公開するとともに、最先端技術を活用した新たな芸術文化の鑑賞体験を提供する。

【3年後の目標】

都立文化施設の情報通信基盤が整備され、芸術文化の新たな楽しみ方に寄与している。2025年度にはTokyo Museum Collectionにて収蔵品情報を全面公開。デジタルテクノロジーを活用した持続可能な芸術文化活動モデルが構築できている。

【2022年度実績】

情報通信基盤の整備。収蔵品をデジタル化し順次公開。江戸東京博物館ゲームアプリ「ハイパー江戸博」の公開。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
情報通信基盤の 段階的整備	事業系ネットワーク増速・増設整備		
	各施設ファイルサーバ整備・運用		
都立文化施設が 有する収蔵品等 の利活用	収蔵品のデータ公開		★ 全面公開
	収蔵品の3Dデータ及び高精細画像の制作・公開		
	映像資料・貴重資料のデジタルリマスター		
デジタルを活用 した新規プログ ラムの企画開発 ／最先端技術を 活用した新しい 鑑賞体験の創造	江戸東京博物館ゲームアプリ「ハイパー江戸博」の更なる拡充		
	最先端技術を活用したインタラクティブコンテンツの開発		
	体験型園内アプリケーションガイドの開発		
	ピッチイベント「UPGRADE with TOKYO」との連携		

【事業概要】

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮する（シビック・クリエイティブ）ための活動拠点。ワークショップなど様々なプログラムを通じて、東京からイノベーションを生み出す原動力となっていく。

【3年後の目標】

都民がアートやテクノロジーを身近に体験できる機会が増えるとともに、アーティストから新たな表現が生み出され世界に発信されている。CCBTがスタートアップや研究機関、まちなどの社会と連携し、事業を展開している。

【2022年度実績】

「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]」を10月に渋谷に開設。デジタルテクノロジーを使用した子ども向けアート×テックラボや、アート思考で東京の課題解決に取り組む未来提案型キャンプ、創作活動を支援した5組のアーティスト・フェローによる展覧会や映像作品などの作品発表を実施。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
様々なワークショップやセミナー等	子供向けワークショップ、未来提案型キャンプの実施 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用 →
アートインキュベーションプログラム	アーティストフェローの創作活動支援 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用 →
社会共創	スタートアップや研究機関、まちとの連携 →		→

プロジェクト5

「アートのある生活」プロジェクト

5-1 現代アートの振興事業

5-2 ライフウィズアート事業

5-3 東京アートブックフェア

5 - 1 現代アートの振興事業

【事業概要】

「アートウィーク東京」における美術館やギャラリーの周遊事業によって、アート鑑賞・交流を楽しむ機会や、現代アートを学べる機会、アート作品の購入経験のない層も気軽に購入することができる機会など、多くの人々が様々な芸術文化と出会う機会をつくる。また、アートイベントの機会を捉えた若手アーティストの活動を後押しするために制作・発信を支援する取組や、作品の魅力をより深く学べるツアーやセミナーの開催を通じて、アートファンのすそ野拡大を諮り、東京のアート市場を活性化させる。芸術文化を気軽に生活の中に取り入れられるよう、絵画作品を貸し出す（アートライブラリー）など新たな仕組みの検討も進める。

【3年後の目標】

「アートウィーク東京」が東京ならではのイベントとして都民に楽しんでもらうとともに、現代アートの振興に向け、市場の活性化施策及びアーティストの成長を支える施策を展開し、東京のコンテンポラリーアートを世界に発信する契機となっている。

【2022年度実績】

都内に点在する主要アートスポットを巡るアートバスを運行するギャラリー周遊事業を実施

〔11月3日～6日 4日間〕

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アートウィーク東京	実施準備 → ★実施 (11月)	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
コレクター裾野拡大の取組（セミナー・子供向けガイドツアー等）	実施準備 → ★実施	同様のサイクルにて運用 ★事業の評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用
キュレーターシンポジウム	実施準備 → ★実施	同様のサイクルにて運用 ★事業の評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用
若手アーティストの制作・発信支援	実施準備 → 募集審査	広報発信 → 募集審査 制作・発信支援 → ショーケース ★開催	制作・発信支援 → ショーケース ★開催 事業の評価・検証を反映し運用
民間と共催によるアート振興事業	実施準備 → ★実施	同様のサイクルにて運用 ★事業の評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用

5-2 ライフウィズアート事業

【事業概要】

アート作品を都民の日常生活の中に根付かせて、アーティストの活動領域を広げる基盤整備を進めることで、芸術文化に携わる人材を増やし、好循環を生み出していく。

【3年後の目標】

新しい取組により、都民が暮らしの中で芸術文化に触れる機会が増えている。

【2022年度実績】

【ライフウィズアート事業】 アーティストと企業のマッチングに向けた取り組みを実施

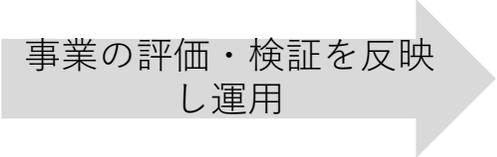
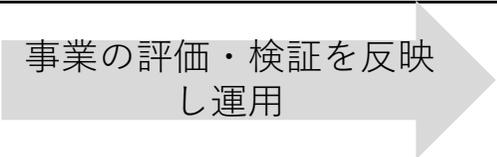
【ライフウィズアート助成】 アート作品等を通じた交流機会の創出や作品を所有することによる楽しみ方の提案など、本物のアートに触れる機会を創出する事業を支援

助成上限額：2,000万円

助成率：1/2

申請受付：6月22日～7月8日

採択件数：5件（申請：10件）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
ライフウィズアート事業	コーディネーター育成  アートと企業とのマッチング  創作環境の整備 	 同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	 事業の評価・検証を反映し運用
ライフウィズアート助成	ライフウィズアート助成の実施 	 同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	 事業の評価・検証を反映し運用

5-3 東京アートブックフェア

【事業概要】

アート出版に特化した日本で初めてのアジア最大級の民間主催のブックフェアを東京都現代美術館を会場に開催し、芸術文化の新たな楽しみ方を創出するとともに、若手作家の支援や海外への発信にもつなげる。

【3年後の目標】

集客力のあるアートブックフェアを活用することで、新たな切り口で芸術文化に触れる都民が増えている。

【2022年度実績】

会期：10月27日～30日(4日間)

会場：東京都現代美術館

備考：アートブックフェアにおいて国内若手作家を中心としたトークイベントを開催

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アートブックフェアの開催	★ アートブックフェア 開催（10月）	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
作家支援	国内若手作家を中心とした トークイベント →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
交流プログラム	海外招聘、関連プログラム → 海外ABFへの派遣 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

プロジェクト 6

アート & エンターテインメントプロジェクト

6-1 TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL (サラダ音楽祭)

6-2 東京芸術祭

6-3 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり

6-4 六本木アートナイト

6-5 恵比寿映像祭

6-6 芸術文化魅力創出助成

6-7 国際スポーツ大会の開催とあわせた文化プログラム

6-1 TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL (サラダ音楽祭)

【事業概要】

サラダ=SaLaDの由来であるSing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！をコンセプトに、ファミリー・子供向け音楽企画や、障害のある方も一緒に鑑賞できるコンサート等、誰もが楽しめる音楽祭を都響と芸劇で連携して開催するほか、都響の楽員と子供たちの合同演奏や演奏指導等を実施し、多様性と調和（社会的包摂）の推進・次世代育成を目指すオリンピックレガシー事業として展開する。

また、地域コミュニティ等と連携し、多摩や島しょでも地域差なく音楽に触れられる機会を提供する。

【3年後の目標】

コンサート等の企画を通じて、社会的包摂の推進、地域で音楽を気軽に触れる機会の提供を進めるとともに、東京都交響楽団（都響）の音楽教育への知見や、都響の楽員を活用する教育プログラムを音楽祭の中心事業のひとつに据え、体験・鑑賞・教育を包括した特色ある音楽祭として定着を図り、さらに多くの都民が参加できる音楽祭として発展させる。

【2022年度実績】

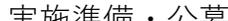
[メインプログラム] 9月18日（日）、19日（月・祝）

[スペシャルプログラム] ●SaLaDスプリングコンサート 野音 de オーケストラ 5月3日（火・祝）

●SaLaDプレミアムコンサート オーケストラ公演：8月23日（火）、24日（水）

室内楽公演：多摩島嶼地域で3回実施

[教育プログラム] 都響の楽員から直接指導を受け、成果発表会としてメインプログラム当日に楽員と共に弦楽アンサンブルを披露する「サラダ音楽祭マスタークラス」を実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
コンサート等企画の実施	開催準備  ★ サラダ音楽祭開催	同様のサイクルにて運用  ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 
教育プログラムの実施	実施準備・公募  ★ 教育プログラムの実施	同様のサイクルにて運用  ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 

6 - 2 東京芸術祭

【事業概要】

池袋周辺地域を中心に、多くの都民に親しみやすい作品から個性豊かな作品まで、国内外の多様な舞台芸術作品を上演するとともに、舞台芸術に関わる国際的な人材育成事業なども行う総合的な国際舞台芸術祭を実施する。

【3年後の目標】

東京から舞台芸術を発信することで、国内外から多くの人々を呼び込むと同時に、多くの人を楽しめる創造的事業を推進し、観光・まちづくり・地域の文化芸術の振興に寄与する。

【2022年度実績】

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指す「東京芸術祭」を開催

会期：9月1日～12月11日

会場：東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE、豊島区立芸術文化劇場 ほか東京・豊島区池袋エリア

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
東京芸術祭	<p>開催準備 → ★</p> <p>芸術祭開催 (9～12月)</p> <p>海外作品を招聘 → ★</p> <p>招聘作品上演</p> <p>★</p> <p>野外劇上映</p> <p>海外への上演作品の配信 →</p>	<p>東京芸術劇場の休館を考慮して実施</p> <p>★</p> <p>事業の評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を反映し運用</p>

6 - 3 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり

【事業概要】

神楽坂エリア一帯を地域の文化資源として活用し、伝統芸能に馴染みのない初心者や若年層、外国人（観光客、在住者）にも気軽に参加できる構成と内容で、日本の伝統芸能や文化に親しむ端緒となることを目的とした伝統芸能のフェスティバルを実施する。

【3年後の目標】

伝統芸能公演の鑑賞・参加を通じて、日本文化に対する理解や幅広い知識を深めることに貢献するとともに、若手実演家等の活躍の機会を提供することなどにより担い手の育成を図り、次世代へ継承するきっかけを作る。また、コロナ後のインバウンドを含む多くの人々が来訪することに貢献している。

【2022年度実績】

会期：5月21日、22日

会場：毘沙門天善國寺／赤城神社／矢来能楽堂／志満金／THEGLEE ほか

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
神楽坂まち舞台・ 大江戸めぐり	開催準備 → ★ 開催（5月）	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

6-4 六本木アートナイト

【事業概要】

六本木のまちを舞台に、アート作品のみならず、デザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどを含む多様な作品を点在させ、非日常的な体験を創出する。アートとまちが一体化することにより、六本木の文化的なイメージを向上させ、大都市におけるまちづくりの先駆的なモデルを創出する。

【3年後の目標】

若手アーティスト等に参加機会を提供することにより、飛躍につながる創造、発信の場となっている。また、国際発信力のある刺激的なプログラムによって、東京の魅力を世界に発信し、コロナ後のインバウンドを含む多くの人々が来訪することにも貢献している。

【2022年度実績】

会期：9月17日～9月19日

会場：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、
国立新美術館、六本木商店街 ほか六本木地区の協力施設や公共スペース

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
六本木アートナイト	開催準備 → ★ 開催 (春頃) 国際発信力のある芸術文化フェスティバルとしての発信力強化 障害・言語のバリアフリー環境整備 六本木地域のブランディング	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

6-5 恵比寿映像祭

【事業概要】

東京都写真美術館を中心に、映像分野における創造活動の活性化と、映像表現ジャンルを横断した芸術性の高い作品を紹介することを目的とした、映像とアートのフェスティバルを開催する。

【3年後の目標】

国際発信および都民への文化還元の強化を主眼とした持続可能な事業へ、バージョンアップした施策・構成のエコシステムを構築する。映像祭における制作委嘱事業により、作家の海外発信を強化するとともに、創作活動の支援を行う。近隣地域文化施設等との共催事業による地域の活性化を促進する。

【2022年度実績】

会期：2023年2月3日～2月19日（3階展示室[コミッション・プロジェクト]は3月26日まで）

会場：東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所ほか

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
恵比寿映像祭	開催準備 → ★ 開催 (2月)	同様のサイクルにて運用 → ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

6-6 芸術文化魅力創出助成

※だれもが文化でつながるプロジェクト（再掲）
スマート・カルチャー・プロジェクト（再掲）

【事業概要】

世界に誇る芸術文化都市の実現を目指し、様々なジャンルのフェスティバルやアートプロジェクト等の創造活動、東京の魅力として発信力・持続力のあるプロジェクト等を支援

【3年後の目標】

助成を通じて民間主催のフェスティバルと連携し、都主催の文化事業とあわせて、芸術文化が溢れる都市を実現、芸術文化による新たな賑わいが創出されている。

【2022年度実績】

助成上限額：2000万円 ※ダイバーシティに積極的に取り組む事業、デジタルアートなど新しい創造活動に取り組む事業へのサポート費を別途支援
助成率：1/2
申請受付：5月9日～5月27日、8月25日～9月30日
採択：68件（申請：206件）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
芸術文化魅力創出助成	<p>募集・審査 → 採択事業の実施</p> <p>※従来の助成に加えて*創作環境サポート費の申請も可能に</p>	<p>★ 事業の 評価・検証</p> <p>募集・審査 → 採択事業の実施</p>	<p>事業の評価・検証を 反映し運用</p>

*アーティストや制作関係者などがより活躍できるよう配慮や工夫をしている事業へのサポート費

6-7 国際スポーツ大会の開催とあわせた文化プログラム

【事業概要】

2025年の世界陸上・デフリンピックの開催にあわせて、誰もが芸術文化の魅力に触れることができる文化プログラムを展開。誰もが同じ情報を得られるよう、文化施設での鑑賞サポートの充実も促進。

【3年後の目標】

両大会を通じて、東京が誇る文化を世界にPRし、東京の持つ多様な魅力を世界に発信している。

【2022年度の実績】

2025年世界陸上&デフリンピックに向けた東京都のビジョン「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」の中で、誰もが芸術文化に触れることができる文化プログラムを展開する旨を記載

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
文化プログラム	プログラム内容の検討、	実施に向けた準備等	★ 実施
都内文化施設の 鑑賞サポート充実	情報保障充実の検討	デジタル技術なども活用した ユニバーサルコミュニケーションの促進	

戦略 3

ハブ機能を強化する

プロジェクト7

アート・ハブ（Art Hub）プロジェクト

7-1 東京アートハブの検討

7-2 東京芸術文化活動サポートセンター（仮称）

7-1 東京アートハブの検討

【事業概要】

東京に集積しているアーティストやプロデューサー、ディレクター、キュレーター、演出家、芸術文化団体、アーティスト・イン・レジデンス等の多様な文化資源を結び付け、世界につなぐハブ拠点を形成し都市の成長につなげていく。その中核として、都民にとっては、最先端の芸術文化が体感でき、誰もが楽しめる場、多様なイベントで都民が直接アーティストと交流できる場、アーティスト等にとっては、東京のアーティストのショーケースや海外発信、最新テクノロジーでイノベーションを創造する場である「TOKYOアート・ハブ」を構築する。

【3年後の目標】

東京アートハブ構想を取りまとめ、その結果に基づき「TOKYOアート・ハブ」の具体的な検討が進んでいる。

【2022年度実績】

アーティストと東京の多様な文化資源を結びつけ、新たな創造を生み出し、東京のアートやアーティストを世界に発信するハブ機能の構築に向けた調査を実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
東京アートハブの 検討	検討		
	有識者会議で 検討 → ★ 構想 取りまとめ		

7-2 東京芸術文化活動サポートセンター(仮称)

【事業概要】

アーティストの活動に必要な機能として、アーティスト等の相談窓口、情報提供及びスクール機能を整備する。

【3年後の目標】

アーティスト等の相談窓口、情報提供及びスクールの機能を整備することで、アーティストや芸術文化の担い手の持続的な活動をサポートしている

【2022年度実績】

2023年の開設に向けた検討や調整を実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アーティスト等の 相談窓口	★ 開設 → 運用	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
情報提供	★ 開設 → 運用	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
スクール	先行実施 → ★ 開設 → 運用	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

プロジェクト 8

海外発信プロジェクト

- 8-1 Instagramを活用した戦略的海外広報
- 8-2 海外の劇場とのネットワーク形成
- 8-3 海外の博物館とのネットワーク形成
- 8-4 海外の美術館等諸機関とのネットワーク形成
- 8-5 THE TOKYO PASS
- 8-6 アートマネジメント人材海外派遣

8 - 1 Instagramを活用した戦略的海外広報

【事業概要】

Instagramアカウント（Tokyo Arts & Culture）を用いて、動画コンテンツやライブ配信等を行い、東京の都市の魅力や文化芸術に関する情報を世界中の人々に対して発信することで、都の文化事業への関心を高める。

【3年後の目標】

目標フォロワー数22万。海外の文化芸術系アカウントに肩を並べる質と影響力をもつアカウントに成長している。

【2022年度の実績】

土日・年末年始を除いて毎日投稿を行い、フォロワー数が約1万人増加し15万人超となる。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
Instagramを活用した戦略的海外広報	インスタ投稿	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
	キャンペーン実施		

8-2 海外の劇場等とのネットワーク形成

【事業概要】

海外の劇場やフェスティバル等との間で提携協定を締結するなどネットワークを形成し、共同制作や両都市での公演等の事業につなげる。

【3年後の目標】

海外の劇場との間で文化交流が促進されるとともに、アジアにおける文化発信拠点としての地位を確立する。

【2022年度の実績】

東京芸術劇場が、フィルハーモニー・ド・パリ及びその傘下にあるパリ管弦楽団の双方とエデュケーション企画で連携することで合意した。※3月中に協定締結予定。

東京文化会館が、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）、ニーム音楽祭Les Voques（フランス）、ミラノ・ムジカ・フェスティバルやローマヨーロッパ・フェスティバル（イタリア）等の様々な機関と連携事業に向けた情報交換、作品情報の共有等を通じた交流を開始。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
海外の劇場とのネットワーク形成	海外諸機関との共同事業の準備		

※歴史文化財団自主事業

8-3 海外の博物館とのネットワーク形成

【事業概要】

江戸東京博物館がこれまでに築き上げた海外の博物館等との信頼関係を基に実施するシンポジウムや国際交流展を通じて、海外の研究者や機関と積極的に交流を行うとともに、異なる文化背景を持つ市民同士の相互理解と友好を促進する。

【3年後の目標】

都市博物館とのネットワークを堅固なものにするとともに、国際社会における江戸東京博物館の認知度をより一層高める。

【2022年度の実績】

ICOM CAMOC年次大会 8月22日（月）～23日（火）リモート参加

日中韓博物館国際シンポジウム 9月5日（月）ソウル歴史博物館

国際交流展「隅田川－江戸時代の都市風景」9月7日（水）～10月23日（日）ソウル歴史博物館

国際交流展「いきもの：江戸東京 動物たちとの暮らし展」11月9日（水）～1月21日（土）パリ日本文化会館

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
日中韓3か国4館国際シンポジウムへの参加 ならびに発表	発表準備 → 実施 【瀋陽故宮博物館】	発表準備 → 実施 【北京首都博物館】	発表準備 →
国際交流展の実施	ソウル歴史博物館「隅田川展」展覧会アーカイブスとして、展覧会会場を360度撮影し、オンラインで公開		
ICOMの主要分科会であるCAMOC（都市博物館のコレクション・活動国際委員会）年次大会への参加ならびに発表	実施準備 → 6月開催地未定	実施準備 → 6月開催地未定	検討・実施準備 →

8-4 海外の美術館等諸機関とのネットワーク形成

【事業概要】

東京都現代美術館にて海外美術館等諸機関とのネットワークを形成し、キュレーター同士の交流を通じて、海外諸機関との共同事業につなげる。

【3年後の目標】

東京都現代美術館と海外美術館等諸機関との共同事業の実施により、日本のアーティストを海外に紹介するとともに東京都現代美術館の海外での発信力を高める。

【2022年度の実績】

M+(香港)やNational Gallery of Victoria(オーストラリア)、シンガポール国立美術館、ブラジル大使館など多数の海外美術館等諸機関との情報交換・作品調査等を通じて交流を深め共同事業実施に向けたネットワークを構築

	2023年計画	2024年計画	2025年計画
海外の美術館等諸機関とのネットワーク形成	海外諸機関との共同事業の準備、実施		

※歴史文化財団自主事業

8 - 5 THE TOKYO PASS

【事業概要】

訪日外国人の東京での文化観光体験の拡充を目指した、都内の国公立・私立の博物館・美術館・庭園・動物園・水族園・植物園等の文化施設（39施設）へ入場できる周遊パス。

○企画・運営：THE TOKYO PASS -Culture プロジェクト

（構成企業・団体：株式会社丹青社、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人東京観光財団、株式会社JTB）

○運営事務局：株式会社丹青社

○協力：東京都

【3年後の目標】

THE TOKYO PASS の取組を契機として、東京を訪れる訪日外国人が芸術文化を鑑賞・参加する機会が増えている。

【2022年度の実績】

9月に販売を開始

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
参加施設	新規参加施設の拡充・提供サービスの充実		
	初動参加施設のフォロー継続		
海外向け販売促進	海外向け販売促進	海外向け販売強化	
アプリ調整	運用状況によりアプリ調整		
独自イベント	回復期のアプリコンテンツ企画、独自イベントの検討～実施		

8-6 アートマネジメント人材等海外派遣

【事業概要】

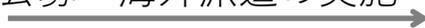
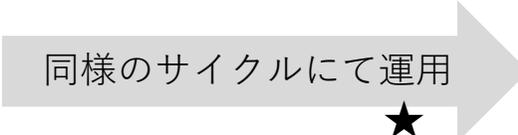
演出家やキュレーターなどの人材を海外の芸術文化機関やシアター等に短期派遣し、一流の事例を学び、ネットワーク構築の機会を提供

【3年後の目標】

国際的に活躍するプロフェッショナル人材を目指す若手にとって、海外の専門人材との緊密なネットワーク構築に資する有意な事業として認知され、東京の芸術文化の魅力の世界へ発信する契機となっている。

【2022年度の実績】

※2023年度新規事業

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アートマネジメント人材海外派遣	実施準備  公募・海外派遣の実施   報告会	同様のサイクルにて運用  ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 

戦略4

持続性のある芸術文化エコシステムを構築する

プロジェクト9

アーティスト・ステップアップ・プロジェクト

9-1 Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)

9-2 TOKAS本郷「Emerging」「Open Site」

9-3 TOKAS「キュレーターインレジデンス」「国内レジデンス」

9-4 スタートアップ助成

9-5 東京芸術文化創造発信助成

9-6 東京音楽コンクール

9 - 1 Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)

【事業概要】

国内で実績があり、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる中堅アーティストに賞を授与し、次なるステージにキャリアを発展させ世界で広く活躍できるよう最適な時期に支援を行う。

【3年後の目標】

TCAAの受賞者が海外で展覧会を開催するなどの国際的な活躍を通じて、東京のアーティストの評価が高まり、底上げが図られている。（3年後の目標：受賞者6名が海外で展覧会開催）

【2022年度の実績】

〔受賞記念展の開催〕 於：東京都現代美術館

第3回受賞者（志賀理江子、竹内公太）のモノグラフ作成、記念展：2023年3月18日(土) - 6月18日(日)

第4回受賞者（サエボーグ、津田道子）の海外活動支援

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
支援策の充実	<p>【第3回受賞者】 展覧会開催</p> <p>→</p> <p>【第4回受賞者】 準備</p> <p>→</p> <p>【第5回】 募集・選考</p> <p>→</p>	<p>展覧会開催</p> <p>→</p> <p>モノグラフ作成海外発信支援</p> <p>→</p> <p>海外活動支援</p> <p>→</p>	<p>準備</p> <p>→</p> <p>展覧会開催</p> <p>→</p> <p>【第6回】 募集・選考</p> <p>→</p>
賞の魅力のPRや広報	<p>賞の特徴および魅力の発信、 賞の実績、受賞アーティスト の活動実績の発信</p> <p>→</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> <p>★ 事業の 評価・検証</p>	<p>事業の評価・検証を 反映し運用</p> <p>→</p>

9 - 2 TOKAS本郷「Emerging」「Open Site」

【事業概要】

TOKASにおいて、35歳以下の新進アーティストに個展実施の機会を提供するEmergingやノンジャンルの実験的企画公募プログラムOPEN SITEのサポートを強化することで、若手から中堅のアーティストのステップアップのための支援を充実させる。

【3年後の目標】

展覧会の設営、作品の輸送などのサポートにより展覧会を充実させるとともに、自らを紹介するための小冊子を二か国語で作成しPRすることにより、更なる活躍の機会を得ている。

【2022年度の実績】

Emerging・OPEN SITEを活用し、展示設営やPR冊子の作成支援を通じて若手アーティストのステップアップを後押し

〔TOKAS-Emerging 2022〕6名の公募展を実施（4月2日(土) - 6月26日(日)）

〔TOKAS-Emerging 2023〕81組の応募から6名を選出し、2023年度の公募展の準備を実施

〔OPEN SITE 7〕135企画の応募から9の企画を選出し、TOKAS推奨企画と合わせて計11企画を実施（10月22日(土) - 1月22日(日)）

〔OPEN SITE 8〕公募を実施（予定）

※いずれもトーキョーアーツアンドスペース本郷において実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
Emerging支援の充実	本格実施 (展示設営、輸送支援、 小冊子作成等) → 公募・審査 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用
OPEN SITEの活用	審査 → 実施 (展示設営、輸送支援、 カタログ助成等) → 公募 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

9-3 TOKAS「キュレーターインレジデンス」「国内レジデンス」

【事業概要】

TOKASレジデンスにて、国内外のキュレーターの滞在活動を支援するとともに、国内の若手アーティストの滞在制作等を支援する。若手アーティストと実績のあるキュレーターとのネットワーキングや、キュレーターによるメンタリング等を実施することで、アーティストの成長につなげる。

【3年後の目標】

海外からのキュレーターを招聘し、国内のアーティストと交流することで、アーティストの成長と海外での活躍のきっかけが生まれるような好循環が生まれている。

【2022年度の実績】

〔キュレーターインレジデンス〕

海外よりリサーチ・レジデンス・プログラム参加の1名によるプレ事業を実施

キュレーター招聘プログラム：公募により次年度プログラム参加者を6名選出

〔国内レジデンス〕

国内若手クリエイター滞在プログラム：公募により次年度プログラム参加者を2名選出

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
キュレーター インレジデンス	前年度の公募によるプログラムの実施 → 次年度の公募 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →
国内レジデンス	前年度の公募によるプログラムの実施 → 次年度の公募 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用 →

9-4 スタートアップ助成

【事業概要】

東京を拠点とし、東京の芸術シーンの次代を担うことが期待される個人（新進の芸術家等）又は新進の団体（芸術団体、実行委員会等）が実施する芸術活動に対し助成する。

【3年後の目標】

東京の芸術シーンで活動を展開していこうとする、新進の芸術家や芸術団体がチャレンジする新たな芸術創造活動を支援し、今後の芸術活動へのステップアップに寄与している。

【2022年度の実績】 プログラム参加者の公募・審査を実施。またオンライン申請のシステムを構築。

助成上限額：個人30万円、団体100万円

助成率：10/10

申請受付：4月,7月,10月,1月

採択件数：個人48件（申請：181件）

団体57件（申請：229件）

※第4回を除く

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
スタートアップ助成	公募・採択（年4回） 助成事業の実施 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用 →

9 - 5 東京芸術文化創造発信助成

【事業概要】

主に若手・中堅の芸術家や芸術団体等をターゲットに、活動の目的や助成期間に応じた3つのカテゴリーにより公募を行い、東京の都市魅力の向上に寄与する多様な芸術の創造活動及び国内外への発信活動とその担い手を支援する。

【3年後の目標】

複数年を対象とする助成など、様々な支援プログラムを実施することにより、多様な創造活動の担い手を後押ししている。

【2022年度の実績】

プログラム参加者の公募・審査を実施

(1) カテゴリーⅠ 単年助成

①都内での芸術創造活動（団体：200万円 個人：50万円かつ、助成対象経費の1/2以内）

採択件数：76件（申請件数：306件）

②国際的な芸術交流活動（団体：400万円 個人：50万円かつ、助成対象経費の1/2以内）

採択件数：23件（申請件数：56件）

(2) カテゴリーⅡ 長期助成（【2年間】800万円【3年間】1,200万円 かつ、助成対象経費の1/2以内）

採択件数：2件（申請件数：24件）

(3) カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業

①短期助成 採択件数：6件（申請件数：25件）

②長期助成 採択件数：0件（申請件数：19件）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
単年助成 (1年)	公募・採択（年2回） 助成事業の実施 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証 →	事業の評価・検証を 反映し運用 →
長期助成 (2～3年)	公募・採択（年1回） 助成事業の実施 →	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証 →	事業の評価・検証を 反映し運用 →

9 - 6 東京音楽コンクール

【事業概要】

芸術家としての自立を目指す可能性に富んだ新人音楽家を発掘し、育成・支援を行うことを目的として東京文化会館で音楽コンクールを実施する。

【3年後の目標】

海外との連携により、東京発の世界的アーティストの輩出を目指し、東京音楽コンクール入賞者の海外での研鑽・活躍の場を創出する。

【2022年度の実績】

第20回東京音楽コンクールを開催（応募総数445名）し、優勝者4名によるコンサートを開催した。優勝者をオーケストラや国際共同制作オペラに参加させ、国内外での活躍機会を増加させた。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
コンクールの運営	第21回東京音楽コンクールの実施 審査体制・支援に向けた検討 成果発表・オーケストラ・オペラへの参加	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

プロジェクト10

担い手育成・支援&創作環境向上プロジェクト

- 10-1 アーツアカデミー
- 10-2 タレンツ・トーキョー
- 10-3 とびらプロジェクト
- 10-4 担い手育成の体系整理
- 10-5 芸術系大学等との連携
- 10-6 芸術文化団体等とのネットワーク会議
- 10-7 アート・プロボノ等
- 10-8 TOKASレジデンシー
- 10-9 アーティストの創作環境の整備
- 10-10 パフォーミングアーツ助成（仮称）

【事業概要】

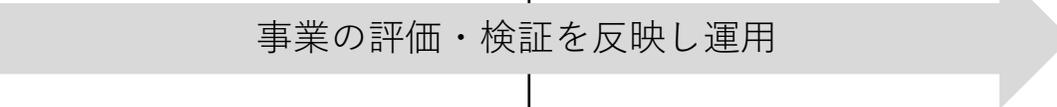
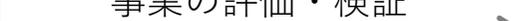
多様な芸術文化の振興を担う人材を育成するプログラムとして、創造環境の課題解決や目標実現に必要な思考力や実践力を磨く講座、劇場運営の現場を担うプロデューサー、コーディネーター等の育成を目的とする研修、会計・税務講座等を実施する。

【3年後の目標】

多様な担い手の成長過程や目的に応じたアーツアカデミー事業を通して、芸術文化の創造環境を支えるアーティストやプロデューサー、キュレーター、企画制作者、文化施設運営者、中間支援実務者等、様々な人材の活動基盤の強化に貢献し、人的ネットワーク形成に寄与している。

【2022年度の実績】

- ①芸術文化創造活動の担い手のためのキャパシティビルディング講座（選考により16名が受講）
開催日：2022年7月22日(金)・8月22日(月)・9月5日(月)・10月3日(月)・24日(月)・11月7日(月)・2023年1月16日(月)
- ②芸術文化創造活動の担い手のための会計・税務講座（全6回）
開催日：2022年7月15日(金)・26日(火)・8月5日(金)・9月15日(木)・10月17日(月)・11月15日(火)
- ③東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修
開催日：長期コース：2022年4月下旬～2023年3月 年間10か月程度 短期コース：上記期間のうち、3か月程度

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
芸術文化創造の担い手のためのキャパシティビルディング講座	事業実施  事業の評価・検証 	 事業の評価・検証を反映し運用	
芸術文化創造の担い手のための会計・税務講座	事業実施  事業の評価・検証 	 事業の評価・検証を反映し運用	
東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修	事業実施  事業の評価・検証 	 事業の評価・検証を反映し運用	

10-2 タレンツ・トーキョー

【事業概要】

映画分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能(=Talents、タレンツ)」を育成することを目的に、映画作家やプロデューサーを目指すアジアの若者を東京に集めて実施。世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供する。

【3年後の目標】

映画分野における次代を担う「タレンツ」に対し、ネクスト・マスターズ・サポート・プログラムなどの継続的支援を行い、タレンツ・トーキョー修了生が国際映画祭等で活躍し、国際的な評価の獲得に貢献している。

【2022年度の実績】

参加者応募選考により選ばれた15名が参加し、タレンツ・トーキョー2022（レクチャーラボ）を実施

会場：ゲーテ・インスティトゥート東京、有楽町朝日ホールほか

期間：10月31日（月）から11月5日（土）までの6日間

ネクストマスターズサポートプログラム（NMSP）の実施

修了生の応募選考により、企画開発ファンド7名、ファンドプログラム2名に助成

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
タレンツ・トーキョー	○レクチャーラボ 公募・審査 実施（11月）★	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用
	○NMSP 公募・審査 助成		

10-3 とびらプロジェクト

【事業概要】

東京都美術館を拠点に、東京藝術大学と連携し、アートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクト。広く一般から集まったアート・コミュニケータ「とびラー」と、学芸員や大学の教員、そして第一線で活躍中の専門家がともに美術館を拠点に、そこにある文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ活動を展開する。

【3年後の目標】

とびらプロジェクトの任期満了者が都立文化施設や全国各地で活躍するなど、東京都美術館を中心としたアートコミュニケータのネットワークが広がり好循環が生まれている。

【2022年度の実績】

- ・第11期とびラーへの基礎講座・実践講座を開催
- ・第12期とびラーの選考を実施
- ・東京都美術館において、とびラボ等のとびラーによる企画を実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
とびらプロジェクト	とびラーの学びのコミュニティの醸成（公募・審査募集フォーラムの開催） とびラー（市民）による企画、実施 基礎講座・3種の実践講座を開催	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の評価・検証	事業の評価・検証を反映し運用

10-4 担い手育成の体系整理

【事業概要】

各戦略における必要な担い手の要件を具体的に定義し、施策を戦略的に展開するとともに、アーツアカデミーやアートポイント計画・各館の人材育成事業などを評価検証し、組織横断で体系的な人材育成プログラムを構築する。さらに、OJTの活用など民間施設との連携に取り組むとともに、アーティストと都民・企業活動等を結び付けるコーディネーターの育成を重点化する。

【3年後の目標】

コーディネーターの育成を推進するとともに、東京都歴史文化財団内の組織横断で体系的な人材育成プログラムを構築する。

【2022年度の実績】

担い手育成の体系整理について検討を実施。

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
担い手育成の体系整理	検討	体系整理を踏まえた事業の展開	

10-5 芸術系大学等との連携

【事業概要】

芸術系大学等との会議体を立ち上げ、都と大学等との共有の場を設けるとともに大学側のニーズを把握し、新人アーティスト等が持続的に活動できるよう施策へ反映する。

【3年後の目標】

会議体が機能し、新人アーティスト等が持続的に活動できるよう支援が充実している。

【2022年度の実績】

大学側のニーズ等について意見交換を行い芸術系大学との会議体立ち上げに着手

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
芸術系大学等との連携	ヒアリング → 施策の検討 → 会議開催 ★	会議開催 ★	会議開催 ★

10-6 芸術文化団体等とのネットワーク会議

【事業概要】

芸術文化団体等とネットワークを形成し、必要な情報提供や意見集約に係る会議を行うとともに、都の施策に反映していく。

【3年後の目標】

ネットワークが強化され、行政課題や現場のニーズを施策に反映できている。

【2022年度の実績】

芸術文化団体とのネットワーク会議を実施し、アーティスト等に対する支援や東京都の取組等の情報を提供するとともに、ハラスメント防止の取組について意見交換を行い、東京芸術文化活動サポートセンター（仮称）の施策に反映した。

開催時期：8月・2月

参加団体：のべ48団体参加

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
芸術文化団体等とのネットワーク会議	<p>会議開催 (意見聴取) ★</p> <p>→ 施策に反映 →</p> <p>★ 会議開催 (情報提供)</p> <p>随時の情報提供</p>	<p>同様のサイクルにて運用</p> 	

10-7 アート・プロボノ等

【事業概要】

芸術文化活動を支えていくため、都民や民間企業の支援を後押しするとともに、企業で培った経験やスキルを生かしたボランティア活動であるプロボノを増やす取組を推進する。

【3年後の目標】

芸術文化活動を支えるための効果的な施策を検討し、事業構築を行う。

【2022年度の実績】

プロボノを活用するNPO法人へヒアリングを実施するなど検討に着手

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アート・プロボノ等	事業スキームの検討、実施に向けた準備等		

10-8 TOKASレジデンシー

【事業概要】

TOKASレジデンシー又は派遣先の提携機関に一定期間滞在しながら、制作やリサーチを行う機会を提供する。滞在中はオープン・スタジオ等のパブリック・プログラムを通じて、活動の発表を行う。

【3年後の目標】

従来のプログラムに、国内のアーティストの創作環境向上や活躍の機会を増やすためのプログラムを加え、アーティストが成長する環境をつくる。

【2022年度の実績】

〔レジデンスプログラム〕

- (1) 海外クリエイター招聘プログラム：6組を海外より招聘
- (2) 二国間交流事業：6名を海外へ派遣し、11組を海外より招聘
- (3) リサーチ・レジデンス・プログラム：7名を海外より招聘
- (4) 国内クリエイター制作交流プログラム：1名がレジデンスに滞在
- (5) 芸術文化・国際機関推薦プログラム：海外より6名がレジデンスに滞在

〔キュレーターインレジデンス〕

海外よりリサーチ・レジデンス・プログラム参加の1名によるプレ事業を実施
 キュレーター招聘プログラム：公募により次年度プログラム参加者を6名選出

〔国内レジデンス〕

国内若手クリエイター滞在プログラム：公募により次年度プログラム参加者を2名選出

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
TOKASレジデンシー	レジデンスプログラム キュレーターインレジデンス (滞在活動支援、メンタリング) 国内レジデンス (ネットワーキング、 メンタリング、公開発表等)	同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	事業の評価・検証を 反映し運用

10-9 アーティストの創作環境の整備

【事業概要】

アーティストが活動する上で必要となる稽古場、アトリエ、スタジオ等の利用に係る負担を軽減させることで、継続的な表現活動を支援する。遊休施設を活用することにより、アーティストの創作の場、交流の場として低廉な価格で貸与する。

【3年後の目標】

多くのアーティスト等が交流し刺激を受けあって制作・発表する場が充実し、創作環境が向上している。

【2022年度の実績】

創作活動スペース「START Box Roppongi」を開設（1月10日(火)から3月18日(土)まで）

創作活動スペース「START Box ササハタハツ」の利用者を2023年1月から募集開始（利用は2023年4月から）

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
アーティストの創作環境の整備	運用		→
	更なる環境整備の検討		→
水天宮ピットの貸出運営	継続運営		→
	※工事休館の可能性あり		

10-10 パフォーミングアーツ助成（仮称）

【事業概要】

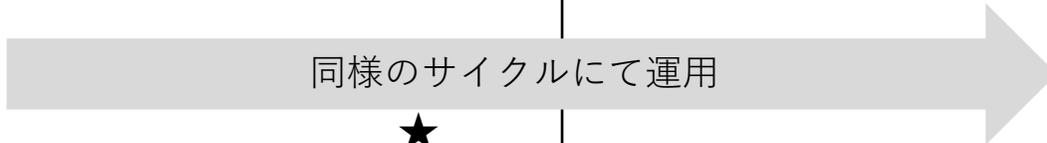
コロナ禍を乗り越えて新たな芸術文化を創造、発信する中小規模の芸術文化団体に対して、中小規模の団体ならではの困難な状況を踏まえた支援を実施

【3年後の目標】

コロナ禍を乗り越え、都内で様々な芸術文化が創造・発信されている

【2022年度の実績】

※2023年度より新規実施

年度	2023年計画	2024年計画	2025年計画
パフォーミングアーツ助成（仮称）	公募・採択 助成事業の実施 	 同様のサイクルにて運用 ★ 事業の 評価・検証	